

第8回阿波おどり未来へつなぐ実行委員会 議事録

日時：令和4年10月26日（水） 10時～11時30分

場所：アスティとくしま3階 第1特別会議室（徳島市山城町東浜傍示1番地1）

出席者：委員22名（内監事2名、オンライン参加3名）

オブザーバー3名（内オンライン参加1名）

【開会】

○実行委員長挨拶

【報告事項】

（事務局説明）

○報告事項1「収支決算見込みについて」

(1) 総括表(概要)

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響等により、団体のチケット販売が低調であったこともあり、入場料収入が当初の見込みから約1,200万円下回ったものの、新たに導入した有料演舞場等へのネーミングライツ制度を始め、協賛金、クラウドファンディングを通じて、県内外の多くの企業、団体、個人の皆様からのご支援により、広告料・協賛金等の収入は当初の予算と比較し、約370万円上回った。

収入全体では、当初の予算を約2,690万円下回る1億7,277万1,000円となった。

- ・ 支出については、人件費、物価高の影響により経費が増大する中で、執行段階において様々な工夫や見直しを行い、経費の削減に努めた結果、金額にして1億6,975万2,000円となり、当初の予算を約3,000万円下回る支出に抑制することができた。

その結果、2022阿波おどり事業の収支決算見込みは約300万円の黒字となった。

- ・ 当初の収支計画で計上していた、新型コロナウイルス感染症に係る国の補助金及び関係事業費については、ぴあ株式会社が国から採択された事業について、新型コロナ対策のための入場管理支援等を行うこととなったため、実行委員会としての補助金収入及び補助対象事業費の支出はなかった。

(2) 有料演舞場等の会場別収支見込みについて

- ・ 収入面では、当日券販売所の設置によるチケット販売の促進、支出面では、演舞場内での広告看板の設置の見直しなど、様々な工夫で支出の抑制に努めたこともあり、あわぎんホールで開催した選抜阿波おどり、藍場浜・南内町の各有料演舞場については、収支差引がプラスとなった。

なお、前夜祭については、団体チケットの販売が大幅に減少したことから、入場料収入が当初の見込みから下回り、収支差引はマイナスとなった。

(山田委員)

- ・ チケットについて、前夜祭以外はある程度販売できたと思う。前夜祭については、事務局が言うように事前の取組が遅れたことが大きな要因で、団体チケットの売れ行きが悪く、集客は30%程度と認識している。次年度以降は従来の前夜祭の状況も勘案して、改善していただきたい。
- ・ 支出については、切り詰める部分については切り詰め、知恵を使うところについては知恵を使ったと思う。

特に広告収入について、今年は有料演舞場の栈敷に看板設置がなく、今までと違うといった声もあったが、従来観光協会が何十年もやってきたときに、紺屋町も含めて4ヶ所の有料演舞場に約150個の看板を設置しており、3,000万円から3,500万円の広告収入だったが、当時の実行委員会に入ってきた金額(収入)はゼロに近かった。

協賛の目的がそのイベントに協力するという趣旨にも関わらず、3,000万円から3,500万円の広告収入が、実行委員会に入るときは、ゼロに近いことが不思議だった。

今回の広告に関連する収支について、協賛金等の収入の合計と、広告看板制作などの支出の合計が概算で分かれば教えて欲しい。

(事務局)

- ・ 広告料、協賛金の収入については、3,983万5,000円。それに伴う支出については、広告関係では集合看板、見物ガイド、うちわ、Tシャツなどを制作した。また、ネーミングライツの関係では、演舞場内の看板等の設置、クラウドファンディングでは返礼品の費用が発生し、概算で収入に対して約750万円の費用が広告関連でかかっている。差し引きすると約3,200万円のプラスとなる。

(山田委員)

- ・ ネーミングライツが合計1,540万円なので、約3,200万円を差し引くと、大体1,660万円が実際の広告料・協賛金等の収入となる。広告料・協賛金等の総計4,000万円からネーミングライツの1,540万円を引いたらクラウドファンディングなどの広告料・協賛金等の金額約2,460万円となるので広告料などに対する経費がほとんどいらなかったと思われる。

これまで、3,000万円から3,500万円の広告料収入があっても差し引きして当時の実行委員会に入ってくるのはゼロに近いという実態であった。

今年は、約2,460万円の広告協賛金等に対して、ほとんど費用がかかっておらず、2,000万円近くのプラスの収支になっていることが明らかになった。

これまでは、看板の制作や設置費用などに広告料収入が消えていたと思うが、今年は知恵を使って、基本協賛の大きな看板、Tシャツへのプリント、うちわなどに充てた結果、これだけの広

告料収入に対して実行委員会に入ってくるお金が結構あったことが、黒字に大きく繋がったと認識したのは私だけではないと思うので、意見として報告しておきたい。

(京野委員)

- ・ 団体チケットの販売について、時間がなかったので売り上げを上げるのが難しかったということだが、来年以降、どういったところに団体チケットを売っていくとか、今回はどういうところに声が掛けられなかったのか、などがあれば教えていただきたい。
- ・ 臨時駐車場の開設費が当初よりかなり高くなっている。これはどうしてなのか。
- ・ 交通規制警備誘導員などの人件費が増えたのは、具体的に人数として見込よりどの程度増えて、金額がどのくらい増えたのか教えて欲しい。

(事務局)

- ・ 団体チケットについて、詳しいお話を聞いているところだが、開催の半年ぐらい前から旅行代理店も動き出して商品企画が始まる。

今年の実行委員会として阿波おどりの準備を始めたのが4月過ぎてからだったので、明らかにスタートが遅かった。また、コロナの状況が拡大と縮小を繰り返していたので、お客さんも様子見されていたのではと推測している。

- ・ 臨時駐車場の開設に関する経費について、従来は地域の団体が、各地域の小学校や公園で臨時駐車場を開設して運営していたため、今回も過去の運営にご協力いただいていた地域の団体にお声掛けし、臨時駐車場の運営をしていただけないかと打診したが、地域の団体は、ここ2、3年、臨時駐車場の運営に携わっていないため、再開することは難しいという御返事を何か所かいただき、その結果、今年は内町小学校と富田中央公園の2か所のみを臨時駐車場として開設することとなった。

今年の運営方法は、実行委員会から地域の団体に駐車場の運営を委託する形をとったが、最近の人件費や物価等の高騰などもあり、経費が過去の実績額からは少し高くなった。

- ・ 交通規制の警備の誘導員等の金額については、感染症対策で配置人数が増えたところもあるが、人件費の単価が過去の実績より上がったことが大きな要因である。

(京野委員)

- ・ チケットについては、今後は半年前に阿波おどりの開催を旅行会社に周知できるということで、これからインバウンドも戻ってきたら、十分に売れると思う。
- ・ 従来は何ヶ所臨時駐車場があったか教えて欲しい。

(事務局)

- ・ 臨時駐車場の過去の開設状況としては、小学校・中学校と公園が7ヶ所で、徳島県庁の駐車場を含めると合計8ヶ所となる。徳島県庁の駐車場は、県外ナンバー専用の無料駐車場である。

(杉原委員)

- ・ シャトルバスの収入が当初予算よりも半分で、その支出はシャトルバス事業費が15%程度の減、臨時駐車場の開設費は2倍近くになっているが、これに対して、シャトルバスと臨時駐車場の稼働率はどれぐらいだったのか。

(事務局)

- ・ 前回の第7回の実行委員会でお示ししたとおり、シャトルバスの稼働率は出ていないが内町小学校と富田中央公園の臨時駐車場はほぼ満車の状況で運営されていた。
- ・ シャトルバスの運行状況として、4日間の合計で人数が9,283人。運行した台数としては89台である。

(杉原委員)

- ・ 稼働率が分からないと来年夏の規模が算出できないのではないかと。
収入自体が半減しているということは、半分の数でもよかったということだろうし、駐車場が満杯だったのであれば、駐車台数が倍必要という考え方もできようかと思う。
- ・ 個人のお客さんで周辺地域に駐車する人が多くて、シャトルバスの利用が少ないというのであれば、シャトルバスの宣伝をしなければいけない。また、中心市街地での駐車場が満杯であるのであれば、シャトルバスを使う駐車場に誘導する必要がある。この辺りの周知をもう少ししていないと、中心市街地の交通量が増える一方である。
- ・ ホテルの駐車場は宿泊人数よりも少ないため、満杯になったら中心市街地の駐車場に回すと思う。その辺りをもう少し検討して調整する必要がある。

(山田委員)

- ・ 臨時駐車場等の事業については収入を上げていかなければいけない事業ではないと思う。これは県外からのお客さんの利便性を解消する一つ的手段としてやっている。
- ・ シャトルバス事業についても、瀬戸大橋や特に明石海峡大橋開通後の近畿圏からの観光客の受入に際し、市内の駐車場が混雑してはいけないということで、当時の実行委員会等の中で、河川敷や沖洲のマリンターミナルなどに大型の臨時駐車場を開設した。

シャトルバス事業は補助金を伴う事業だが、シャトルバスにおける補助金の額と必要な支出金額において、従来から、2倍近くの支出を余儀なくされている。

無料演舞場に使う補助金についても、従来は補助金事業に対して補助金が2分の1しか交付されてなかったのが現状で、(観光協会の)赤字が出来た大きな要因の一つであった。

- ・ 杉原委員から言われたシャトルバスの拡大については、バス協会の委員の方や過去の委員からお伺いしたが、バスの調達は単価の問題などもあり、非常に困難であると思う。
- ・ 前市長の遠藤さんのときに、小学校での臨時駐車場開設のなどで、お世話をしていたいた人を全部除外してしまった。今回、臨時駐車場を再度開設して欲しいと事務局から何度も頼みに行ったが、地元の団体での開設・運営は難しいとの回答だったと聞いており、結局臨時駐車場を開設できたのは2ヶ所だった。

潰すことは早いけれども元に戻すのはものすごく時間がかかると思う。

それまで長い間、地域の人がある程度協力していただいていたところを、前市長の時代は、ガードマン等に委託するなどの経費が発生したため、結局赤字が出た。

- ・ 補助金の使い道は無料演舞場やシャトルバス事業。先ほど京野委員から言われたシャトルバス事業の収入が半分になっているというのは、受益者負担のことである。利用率が15%、20%減っている中で、収入も減っていくのは当然だが、この辺りは補助金との兼ね合いで考えていく必要があると思う。

端的に言うと、補助金はもらわない。その代わりに、シャトルバスや無料演舞場の事業はやめる、その場合、収支はプラスにはなるが、それが徳島の阿波おどりの目的ではないと思う。補助金やチケット収入にも頼りながらトントンでやれば一番いい。

赤字・赤字と取り沙汰されて、観光協会が潰れたこともあったが、大きな要因の一つはこの補助事業にあるということ、実行委員会の皆さんも認識をしていただきたい。

(杉原委員)

- ・ 先ほど言いたかったのは、収入の問題ではなく稼働率の問題で、中心市街地の臨時駐車場の稼働率が一番いいのであれば臨時駐車場を増やさないといけないのではないかと。シャトルバスの需要が少ないのであれば、縮小の方向で考えるべきではないという話をしたかった。

(山田委員)

- ・ 中心市街地の臨時駐車場を拡大することは可能ではあるが、並大抵ではない。来年1つ、2つの小学校を臨時駐車場として元に戻してもらうような努力を余程性根を入れてやらなければ、一旦手が離れてしまっはなかなか戻ってこないと思う。

また、杉原委員にも、新町地区を中心に臨時駐車場開設の御協力のお声掛けをいただきたい。私らも一生懸命地元の小学校や中学校に委員の1人としてお声掛けさせていただきたいと思っている。

(楠委員)

- ・ シャトルバスをご利用されるのは殆どが一般の方だが、通年であれば乗客の3割ほどが団体のお客様で、往路・復路があるうち、復路だけ使うというパターンであった。今年も当初は110台ぐらいと聞いていたが、団体の数が少ないということで89台にさせていただいた。団体のお客様が増えてきたらシャトルバスの利用も必ず増えると思う。
- ・ いつもは沖洲マリナーミナルを臨時駐車場にしていたが、今年は他のイベントで使うということで70~80台しか入らないマリンピア沖洲の多目的スペースを臨時駐車場として使った。その点もシャトルバス利用者が少なかった原因で、次からはマリナーミナルを使わせていただき、団体の方が来るようになれば、例年並みの収入となると思う。ご理解をいただきたい。
- ・ バス代として実行委員会に請求させていただいているのは、税抜き約960万円で、残りの1,000万円は運営費になる。

(実行委員長)

- ・ 意見も出尽くしたようであるので、次に報告事項(2)・(3)について、事務局から説明をお願いする。

○報告事項2「前回実行委員会からの課題検討事項等について」

(事務局説明)

(1) チケット関係について

- ・ コンビニでのチケットの取り扱いが複雑であったなどのご意見をいただいた。

対応方針等としては、2023阿波おどりの開催に向けて、他の祭りやイベントのチケット価格の設定方法やチケットの販売促進方法について、委員からのご意見も含め、チケット取扱事業者と年内に検討会を実施し、協議する予定としている。

(2) 開催規模について

- ・ 来年度は紺屋町演舞場を開設するなど開催規模を広げてはどうか、2023阿波おどりの開催に向けた大きな目標を立てるなどのご意見をいただいた。対応方針としては、実行委員会の議論を経て、事業計画案を策定していくこととした。

(3) 運営関係の組織運営について

- ・ 目標を達成するための実行委員会の体制作りについてご意見をいただいた。対応方針としては実行委員会の議論を経て、運営体制を整備していくこととした。
- ・ 栈敷運営スタッフの育成や、栈敷席のC席の設定・販売方法、演舞場での連の呼び込みに使用する放送機器の不備についてご意見をいただいた。対応方針としては、ご意見を踏まえ、次年度の運営へ反映していくこととした。

(4) 阿波おどり連関係について

(5) 感染症関係について

- ・ 栈敷内でのマイクパフォーマンスの見直し検討や総おどりを実施する演舞場の固定をはじめ、不織布マスクの着用や控室の広さなどの感染症対策についてご意見をいただいた。

これらについての対応方針等については、踊り連の中心を担う阿波おどり振興協会、徳島県阿波踊り協会及び実行委員会事務局による意見交換を、去る10月18日に実施した。今後においても定期的に協議の場を持ち、引き続き検証・検討を行っていく。

(6) その他について

- ・ ボランティア活動での予算充当や阿波おどりでの活動に対する協賛項目の設定、ゴミの回収方法、阿波おどりに関わるスタッフの接遇についてご意見をいただいた。対応方針としては、ご意見を踏まえ、次年度の運営へ反映していきたい。
- ・ 選抜阿波おどり会場であるあわぎんホールの設備面については、あわぎんホール施設管理者と情報を共有している。

○報告事項3「今後のスケジュール予定について」

(事務局説明)

- ・ 12月下旬から来年1月上旬開催予定の第9回実行委員会では、2023阿波おどり事業計画の概要案について、3月に開催予定の第10回実行委員会では2023阿波おどり事業計画の詳細案について、それぞれご審議いただく予定としている。

(中川委員)

- ・ あわぎんホールのトイレについて、実行委員会事務局と情報共有しながら、改善すべき点はすぐに行うこととしている。ウォシュレットについては一部完全にできていないが、それも設置者と管理運営の私どもで協議し、改善する方向に進めたい。

(京野委員)

- ・ ボランティア活動をするにあたり、経費面で厳しい部分があるとのことだが、具体的にどんな物が必要なのかがわからない。例えばゴミ袋など、そういったボランティアに使う物まで負担することはできないと思う。そういったところは配慮していただきたいと思うが、こういった経費、予算が不足して大変だというのは聞かれているのか。

(岸田委員)

- ・ 中心市街地にゴミのブースを3ヶ所出して、来られた人数をカウンターで数えていた。7,000人以上来られたが、それでも全然ゴミを回収できていない現状が分かってきた。
- ・ 前回の実行委員会で提案させていただいたが、予算計上を実行委員会や市役所に望むというよりは、企業からの協賛項目に入れていただきたいと思った。
- ・ どういった費用がかかるのかという質問に関しては、まずはハード面の費用がある。雨が降る可能性もあるので、テントが必要であったり、また、夜の活動でゴミの分別を促す際に、暗かったら見えないのでライトが必要となる。これらの費用が発生する。
- ・ 次に、高校生や大学生のボランティアに研修するための費用や会場の借り上げ費、市役所などとの交渉事も、経費として必要である。これらの経費を協賛項目としていただけたらと話をさせてもらった。
- ・ 阿波おどり未来へつなぐ実行委員会に入って活動していく中で、自分や関わった若者も阿波おどりに関して批判を浴びることが多くあった。特に、学生が(それを)言われるのはナンセンスだと思っている。批判内容もあることやないことを言われることが多いので、実行委員会の議論の場をフルに一般公開したらいいと思う。一部を切り取られて報道され、それを基に批判されるのは、私にご勘弁いただきたいと思っている。

ZOOMの配信ができるのであれば、リンクを市役所のウェブサイトには貼り、フルで公開し誰でも見られる体制を整えるのがいいのではないか。

(杉原委員)

- ・ 団体のチケットの問題について、6ヶ月前から旅行代理店等は旅行のシステムに組み込むとのことだが、資料4ページの今後のスケジュールでは、団体チケットの受付が3ヶ月前の(令和5年の)5月になっている。これだと今年と同じように団体客が減ることにならないのか。受付の詳細は2月までには決定しておく必要があると思う。

そうなると第9回実行委員会の令和4年12月下旬から令和5年1月上旬には概要案ができている状態で発表しなければいけないと思う。

(事務局)

- ・ 団体旅行の商品化については、約半年前のタイミングから動き出すと伺っている。資料にお示ししている団体チケット受付は、実際に旅行代理店にチケットを予約をしてもらう作業時期である。

まずは半年前のタイミングで、2023阿波おどりがどういう規模で、何日から何日までどこで開催するかなどをお知らせし、旅行商品の企画に取り掛かっていただく。来年も阿波おどりをするという認識を持っていただくための、半年前というタイミングなので、団体チケットの受付のタイミングとは、意味合いが異なる。

(立川委員)

- ・ 収支を見せていただき、本当に苦労があったと思うが、黒字にできたことは本当にありがたい。
- ・ 先ほど岸田委員からもお話があったが、あることやないことではなく、ないことをたくさん言われて、いろんな協議している中で良い意見があるのに、それが表に出ない。前々から事務局にもお願いしているように、議事録を早く出して欲しい。ネットで配信ができるのであれば、その議事録も少々遅れてもいいのではないかと思う。収録したものを随時配信しておけば、協議している内容が一般の方にも分かる。
- ・ 報道関係では、一部が切り取られた情報だけしか流れない。前回の実行委員会の後も、一部のメディアでは私が謝罪したシーンだけが流れ、別のメディアではその前後の様子も流れる。それによる受け取り方の差は一般の方には出てきていて、良いことをしているのに悪く捉えられる。前に進めようとしているのに誰かが足を止めて後ろ向きに考えてしまうことがすごく多かった。前向きに考えるためにもオープンな会議にしながら話できたらいいと思う。
- ・ 次年度について、紺屋町演舞場がなかったから秋田町界限が衰退していた、売り上げが落ちていたなどの話もあるが、お店の魅力的な発信など、一部に関してはお店の問題だと思う。
秋田町界限を活性化させるためには、栈敷を建てるのか、踊りロードとして開放するなどの話も要になってくる。その点をきっちり話しながら進めていっていただきたい。
- ・ 先日の県協会との協議の場に私も立会いさせていただいたが、当初より言っていた感染対策や看板の設置など発信の仕方、藍場浜演舞場の栈敷のスタイルなどたくさんのお話が出ていた。そういうところをできるだけ改善していきながら、来年の夏に向けていけたらいいと思う。できるだけ多くの団体の方からの意見を吸い上げていただき、協議していただきたい。

(京野委員)

- ・ 臨時駐車場の設置個所が、7ヶ所から2ヶ所になったのは、昨今のコロナや民間のトラブルなどがあるため、学校関係者の方が反対され、民間委託に移行していったと勝手に思っていたが、山田委員のおっしゃっていた、駐車場を世話している人が排除されたというのはどういうことなのか。

(山田委員)

- ・ 以前は、地元のPTAや体育協会の方が、それぞれの小学校や地元の公園に臨時駐車場を開設し、お盆中交代で駐車場の管理、運営をしていた。市は学校や公園の使用を許可し、臨時駐車場の収入により、地元の体育協会や学校のクラブなどで道具を買ったり、施設の修繕に使っていた。それを前の市長が、地元で利益を上げるのはけしからんと、臨時駐車場の収入も実行委員会ですべて管理した方がいい、というところで地元の団体は全部手を引いた。

例えば、新町小学校のあるPTAの人は、両国でお店を持っておられて、お盆のときは忙しいため、地元の臨時駐車場の手伝いは物理的に行けないため、日当を払って代理の人に行かせたという人も数多くいる。

そういった苦勞もしながら嫌々していた方が多くいるのに、利益を上げてはだめと言われてまで(駐車場の運営を)するのは心外だというところで多くの地元団体は手を引いた。

- ・ 民間のガードマンを入れて、その必要経費がマイナスに出て、臨時駐車場の利用料金を1,000円から1,500円に50%アップしているにも関わらず、ずっと赤字が出ていた。
- ・ それを今回の新しい実行委員会の中で、地元の人に以前のように協力してもらえませんかとお願ひに行ったら、今更何を言うんですかと大半は断られ、2ヶ所は同じような形で協力いただいたということである。

(森浦委員)

- ・ 臨時駐車場について、PTAや学校の体育協会が運営していたが、一旦やめさせられたら、なかなか復活できないということで、いろいろトラブルが起きたと思う。

市長が代わっても、実行委員会の方で、臨時駐車場の運営団体は変わらずにできるようにしていただきたい。

- ・ 旅館ホテルとしては、今年度は全国インターハイが四国4県で行われて7月の約20日間でいろいろな学生団体の宿泊があり、その点では良かった。
- ・ 阿波おどりも開催できたことは非常に良かった。有料演舞場が2ヶ所の開催だったが私達も期待できるという望みを持てたことが非常に良かった。大手のホテルなども、良かったと歓迎している。

ぜひ次年度は、団体チケットも売り上げが上がるよう、もう少し早く取りかかっていたきたい。団体チケットは早く企画しないと応募がなかなか集まらなかったりするので、旅行業界からは今年を機会に、次年度は早く取りかかっていたけようにお願いしたいと思っている。

(立川委員)

- ・ 先ほどの会議をオープンにしたかどうかについて、配信システムで可能になると思う。同様に阿波おどり公演をチケット制にしてチケット購入者にパスワードなどを発行し、ネット配信するような形を取ってもいいと思う。
- ・ コロナ禍でまだまだ世界中からは来られない方も、この3年間で体調を崩されて家から出られない方もたくさんいる。ニュースを見て元気をもらったという声もたくさんいただいた。枚数が無理であれば舞台だけでも配信ができれば、枚数と同じようなチケット価格でご覧いただけるような形を取ってもいいと思う。

設備費用が必要となり、収支が変わってくると思うが、魅力ある阿波おどりを世界中に簡単に発信できる。一方的に来徳してくれとお願いするのではなく、実際に来られない方のためにもネット配信を上手く使いながらやっていってはどうかと思う。

(矢田県観光協会理事長 ※オブザーバー)

- ・ 先日東京でクルーズ船の営業をしてきた際、クルーズ船各社が、来年度はぜひ阿波おどりに行きたいと言っていた。今年は台風で2艘が来られなかったため、その辺が団体の収支に影響が出たと思うが、クルーズ船各社が枚数を貸し切ってもぜひ着岸したいと言っておられた。

観光振興の立場から、県外の方は非常に阿波おどりに期待しており、実行委員会の役割もますます重要になってくると思う。個人的にはぜひ今年度実行委員会に参加いただけなかった県阿波踊り協会の皆様にも復帰していただき、徳島が一丸となって、国内外に向けて徳島の阿波おどりブランドを売り込んでいきたいと思うので、ご協力よろしくお願ひ申し上げる。

(山田委員)

- ・ 岸田委員が言われた会議をオープンにすることについて、今日も公開にしており、傍聴の方もいらっしゃるのでは、それをネット配信することに何の問題もないと思うので、その方向でご検討をお願いしたい。非常に素晴らしいご意見だと思う。
- ・ 10月11日から実施されている全国の旅行宿泊支援の取組に合わせて、先日県独自の取組も発表されている。県の方に、阿波おどりのチケットをプレゼントするなど阿波おどり支援のような事業を予算化していただくよう実行委員会や行政、内藤市長からもお願いしながら取組んでいただければ、徳島県全体として阿波おどりの時期の経済効果が目に見えてあると思う。

(中村委員)

- ・ 黒字に越したことはないが、黒字にしないといけないようなことばかりではいけないと思う。もし赤字になっても徳島市が潤ったと、阿波おどりをやってよかったともっともっと、市民からも県民からも声が出るようになるのがよい。あまり黒字にこだわりを持っていたら阿波おどりができないのではないかと思う。
- ・ 新町川を守る会でも栈敷を作っているが、最初から収入ゼロのため100万円の赤字である。我々がするものでも最初から100万円の赤字なのに、もっと全体の経済効果がこれだけあったと、あまり黒字にこだわらず、少々赤字でもいいではないかという気持ちでやらなければ阿波おどりの開催は難しいと思う。
- ・ やはり振興協会と県協会が、実行委員会に両方入ってやっていかなければいけないと思う。今ますます両方が離れていくような気がする。阿波おどりを盛り上げていくために、両協会が一致してくれなければいけない。
市民も県民も皆が応援すると、その代わり阿波おどりの協会も一緒になってやるというような形、来年度は徳島県全体を盛り上げていく方向で進めて欲しいと思う。

(杉原委員)

- ・ (阿波おどり事業で)赤字が出たら、実行委員会に参加している方々全員の責任になる。また、赤字が出ると市の税金で補填することになり、逆に市民に嫌われる。某新聞社、某テレビ局が散々今回の阿波おどりは失敗で赤字が出る、市の税金で賄われるがどうするのかと書き立てていた。
基本的にトントンでもいいぐらいの感じでいくべきである。元々前市長が徳島市観光協会を潰した理由も赤字で、赤字が出たら市の税金を入れるのか、入れないのかなどの問題も発生してくる。
今回黒字で本当に万々歳と思うが、黒字を出す前にトントンでもいいから、その辺りで抑えられるぐらいの経営努力は必要で、それに伴って市民の収入が増えること、観光客がお金を落としてくれることを目指さないといけないと思う。初めから赤字ありきの考え方は非常に問題がある。

(西岡委員)

- ・ 資料2ページの開催規模や運営関係のところでもあるが、2023年度の阿波おどりをどのようにするのか目標を立てる必要がある。その目標を達成するためのチーム編成ということで、この実行委員会にもそれぞれのスペシャリストが集まっている。この会議をZOOM配信するという話もあるが、今回少し足りなかったのは広報のあり方だと思う。

たくさんの方に来ていただいたり、インバウンドも戻ってきているので、どのように阿波おどりをブランディング化していくか、阿波おどりに来てほしい、来たらどういふことがあるのか、もっと世界に向けての発信を強化していかなければいけない。

折角、実行委員会の中には若い方もたくさんいらっしゃるので、そういったところでもっと力を発揮いただき、強化しなければならない。どうしても報道のイメージに引きずられてしまうところもたくさんあるので、次年度はそこに向けて力を入れていただけたらと思っている。

(福本委員)

- 学生として、友達を誘って4日間全て参加させてもらって大変楽しかった。
- 徳島で生まれて育ったこともあり、阿波おどりの音を聞くと血がたぎる、ワクワクする気持ちがあり、久しぶりにその感覚を得た感じがするが、小さい頃に感じたワクワクはもっと大きかった。コロナの中で社会環境の変化に合わせながらであれば、もっとスムーズにいろいろなことが進むようになっていくと思った。
- 県外から来た友達は、最近阿波おどり自体が開催されていないこともあり、阿波おどりを知らなかったが、どこでも通用するツールだと感激していた。阿波おどりを広めていきたい、来年も開催するのであれば、積極的に関わっていきたいということも言っていたので本当に阿波おどりを無くしてはいけないと改めて感じた。

(京野委員)

- 以前山田委員が連員を連れて、タイの阿波おどりのイベントに参加されいた際に拝見したが、海外の方が大変喜んでくれていた。
- 阿波おどりは海外でも受けがよく、各国で海外的にブランディングしているが浸透していないのは、(事務局スタッフが)海外ブランディング等が不得意な分野なのではないかと思った。長期的に考えると民間のエンターテインメント業者等が参加する方がいいのではないかと。今年にはコロナ禍で開催自体が危ぶまれていたため、そういったことまで考える時間がなかったが、これからの集客方法等と長期的に考える必要がある。
- 阿波おどりも少子高齢化が進んでおり、対策として若い連員を募るのかどうかなど、現状で不安要素もある。個人的にはイベントをする専門的なチームを作り、月1回集まるだけでなく、流動的に話ができる、動けるチームを編成してはどうかと思った。

(実行委員長)

- ・ 今年の問題を考えながら実行委員会が素晴らしいものになっていけるように、どのようにしたら県外の方を含めて皆さんに阿波おどりを楽しんでいただけるのか、器を大きく考えていきたいと思う。

【閉会】